
魔法少女リリカルなのはStrikerS 一途な思い

czhs

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはStrikers 一途な思い

【Nコード】

N0251Z

【作者名】

c z h s

【あらすじ】

八神はやてが率いる新部隊その名を機動六課。この出来て二日目の部隊に異動してくる一人の魔導士がいた。これは機動六課と一人の魔導士が織り成す物語。

始まり（前書き）

初めまして『c z h s』と申します。ド素人なので温かい目で見
て頂けたら幸いです。

始まり

はやてside

はやてとリンはある書類を見ていた。

「まさかあの人が来てくれるとは思ってなかったわ〜リンディさんに頼み込んだかいがあったちゅうもんや!」

「誰なんですかその人って?」

「うちやなのはちゃんそれにフェイトちゃんが前からお世話になった人や。ここ最近おうてへんから会うのが楽しみやわ〜」

二人が話しているとドアをノックし二人の人物が部屋に入ってきた。

「はやてちゃん急に呼び出しながら何かあったの?」

はやてに話しかける人物、栗色の髪をサイドポニーにして教導管の制服に身を包む管理局のエースオブエース、高町なのはだ。

「実はな今日他のところから異動してくる人がおるんよ。二人も知つとる人やから教えとこうと思つてな」

「私達も知つてる人?」

はやての言葉に首を傾げる金髪の女性。黒い執務管の制服に身を包んだフェイト・T・ハラウオンだ。

「せや、これがその人に関する書類や」

二人は書類を見ると同時に驚きと嬉しさのあまり声をあげた。

「えええええ!!!優君が来るの!?!」

「優が一緒ってことは…四人揃うのは三年ぶりだね」

「そうなんよ、はあくはやく来てくれへんかな」

優side

「ここが機動六課か…金使い過ぎだろ」

『まあ新築ですらね。それよりマスターあまり時間がありませんよ』

「そうだなありがとなアイリス」

『どういたしまして』

俺こと如月優と相棒のアイリスは六課の校舎前にいた。三日前にリンディさんにいきなり異動させられたのだ。それも拒否権なしにな
「アイツらと再び会うことになるなんてな…これもリンディさんの
策略かなんかなのか？」

『策略かどうかはわかりませんが少なくともあの人に限って悪意があつてやった事ではないと思います』

「そうだな…さてと行くか」

next

出向（前書き）

二話目です。やっぱり小説書くのって難しいですね……

出向

優side

「中に入ったはいが部隊長室ってどこだ？」

『私に聞かれましても…』

「だよな」

こんな感じで俺達は六課の校舎内をさ迷っていた。受付の人が居なかったからまあしかたがないと思い自力で探していたんだが、一向に見つからない

「それに誰にも会わないとは…」

溜め息をついていると前から青髪とオレンジ髪の子達が歩いてきた。ちようどいいから聞いてみるか

「ちよつといいかい？」

「はい、何でしょうか？」

青髪の方が聞てくる

「部隊長室がどこにあるか教えてくれないか？」

「失礼ですが、どちら様ですか？」

今度はオレンジ髪の方が聞いてくる

「おっと名乗ってなかったな。俺は如月優一等空尉、本日から機動六課に異動して来た者だ」

「！？失礼いたしました。ティアナ＝ランスター＝二等陸士です」

「スバル＝ナカジマ＝二等陸士です」

「よろしくなティアナ、スバル」

「はい、では案内させて頂きます」

三人は部隊長室に向かった

はやてside

「優君と直接会つのは二年ぶりやな、今度どっかに連れてってもらおうかな」

「だめだよはやてちゃん、連れてってもらつのは私なんだから！」

「二人共、何言ってるの？優は私と出かけるんだよ！」

そんな事を言っているとティアナから通信がはいった。

失礼します、如月一等空尉をお連れしました

「わかった、ありがとな」

いえ、それでは

通信が切れるとドアをノックして優君が入ってきた

「失礼します、本日より機動六課に出向します如月優一等空尉です。一年間よろしくお願いします」

「機動六課部隊長の八神はやてです。六課はあなたを歓迎します。」

お互い敬礼し握手をする

「さて、堅苦しいのはしまいや。久しぶりやね優君」

「これからよろしくね優君」

「よろしく優」

「久しぶりだなはやて、なのは、フェイト!」

n
e
x
t

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0251z/>

魔法少女リリカルなのはStrikerS 一途な思い

2011年12月1日23時46分発行